



ジャガイモは、花が咲くのに、どうして種ができないの

種ができるときもある

ジャガイモは、ナスやトマトと同じ仲間、同じような花が咲きます。めしべとおしべがあり、めしべの根もとには、種ができるふくらんだ部分もあります。でも、長い間、品種改良をされてきたため、いま畑にあるジャガイモは、種類によっては、花粉ができないものや、花粉がめしべについても、種や実ができないものが多いのです。

畑で探してみると、花の後に、ジャガイモの実ができています。実から種を取り、まいてみると、本葉がしげるころ、くきの根もと近くから枝が出て、枝先が土の中に入っていました。2週間後、土をほると、もぐった枝先にイモができていました。枝はくきが変化したものなので、イモは、くきの変化したものであることがわかります。

野生のジャガイモには種がある

野生のジャガイモは、種ができます。ジャガイモの品種改良には、いろいろな野生のジャガイモなどの花粉を集めて、めしべにつけてやり、できた種をまいて、よい性質のジャガイモを選び出します。いろいろな性質をもつ花粉から、どんな性質のジャガイモができてくるかわからないため、種によっては、病気に弱いとか、イモがおいしくないとか、悪い性質のものもたくさんできてきます。しか

し、イモを植えてできるジャガイモは、親イモと同じ性質のものができます。ですから、おいしいイモをたくさん作るには、今、行われている、イモを植える方法がいちばんよいのです。（監修・矢野 亮）

